

〔図説〕 松本歯学 28 : 81~83, 2002

key words : *Limited cone beam CT — impacted teeth — root resorption*

歯科用小照射野 X 線 CT (3 DX) 画像診断：  
異所性埋伏歯による歯根吸収確認に有用であった 1 例

内田 啓一, 新井 嘉則, 塩島 勝, 永山 哲聖

松本歯科大学 歯科放射線学講座

新澤 真弓, 上松 節子, 栗原 三郎

松本歯科大学 歯科矯正学講座

Diagnostic Imaging by Limited Cone Beam CT (3 DX) :  
A Case in which Root Resorption by an Ectopic Impacted Tooth was Effectively Ascertained

KEIICHI UCHIDA, YOSHINORI ARAI, MASARU SHIOJIMA and TESSEI NAGAYAMA

*Department of Oral Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry*

MAYUMI NIIZAWA, SETSUKO UEMATSU and SABURO KURIHARA

*Department of Orthodontics, Matsumoto Dental University School of Dentistry*

歯根吸収は良性腫瘍、嚢胞あるいは埋伏歯による圧迫吸収によってみられることが多く、口内法 X 線写真あるいは断層方式パノラマ X 線写真において観察は容易である。しかし、異所性埋伏歯による歯根吸収の三次元的観察は困難なことが多い。

今回、我々は歯科用小照射野 X 線 CT (樹モリタ製作所、京都、以下 3 DX) 検査により両側上顎の異所性犬歯埋伏による歯根吸収確認に有用であった 1 例を経験したので、その写真を供覧し報告する。

患者は 10 歳、女子。本学にて歯科矯正治療中



写真 1 : 断層方式パノラマ X 線写真において上顎両側中切歯の歯根吸収を認める

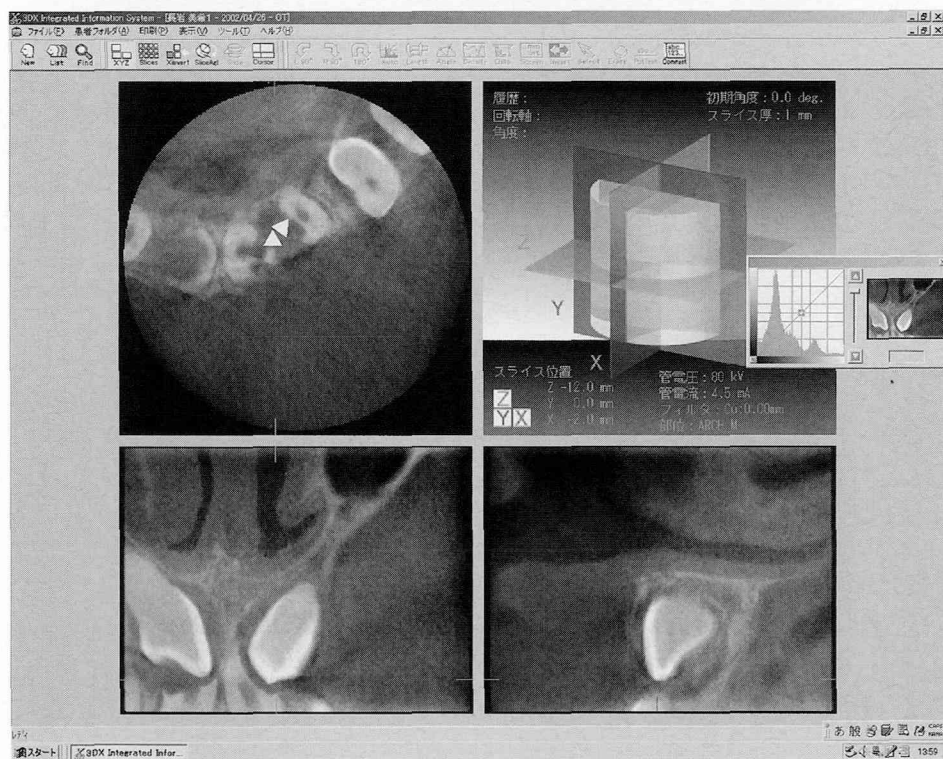


写真 2, 3: 左側上顎埋伏犬歯の歯冠部は左側上顎中切歯と側切歯の根を離開するように位置し, 両側の歯根吸収が認められる. 一部歯髄腔までに達している (△印).

に、両側上顎埋伏犬歯の位置確認と隣接歯の歯根吸収の状態を観察する目的にて、断層方式パノラマX線撮影を行った。上顎両側中切歯の歯根吸収は認められるが、埋伏歯の頬舌的な位置関係、両側側切歯の歯根吸収の状態、埋伏歯周囲の骨吸収の状態は判然としなかった(写真1)。詳細な観察を行う目的にて3DXによる撮像を行った。左側上顎埋伏犬歯の歯冠部は左側上顎中切歯と側切歯の根を離開するように位置し、両側の歯根吸収が認められ、一部においては歯髓腔までに達していた(写真2)。しかしながら、側切歯の根尖部までには吸収は及んでいなかった(写真3)。右側上顎埋伏犬歯は左側と同様に両側の根を離開する

ように位置しており、中切歯根尖では著しい歯根吸収を認めた。側切歯においては一部に吸収を認め、根尖側は舌側方向に変位しているのが認められた(写真4)。

埋伏歯の観察には、従来偏心投影法、咬合法や歯科用多機能断層撮影が行われてきたが、3次元的な画像診断は容易ではなかったが、埋伏歯における3DXの画像診断では、隣接歯との位置関係や歯根吸収の状態あるいは骨の状態を三次元的に観察できるようになった。

今回の症例においては埋伏歯の位置を詳細に観察することができ、今後の矯正治療方針や抜歯方法の検討において有用であった。

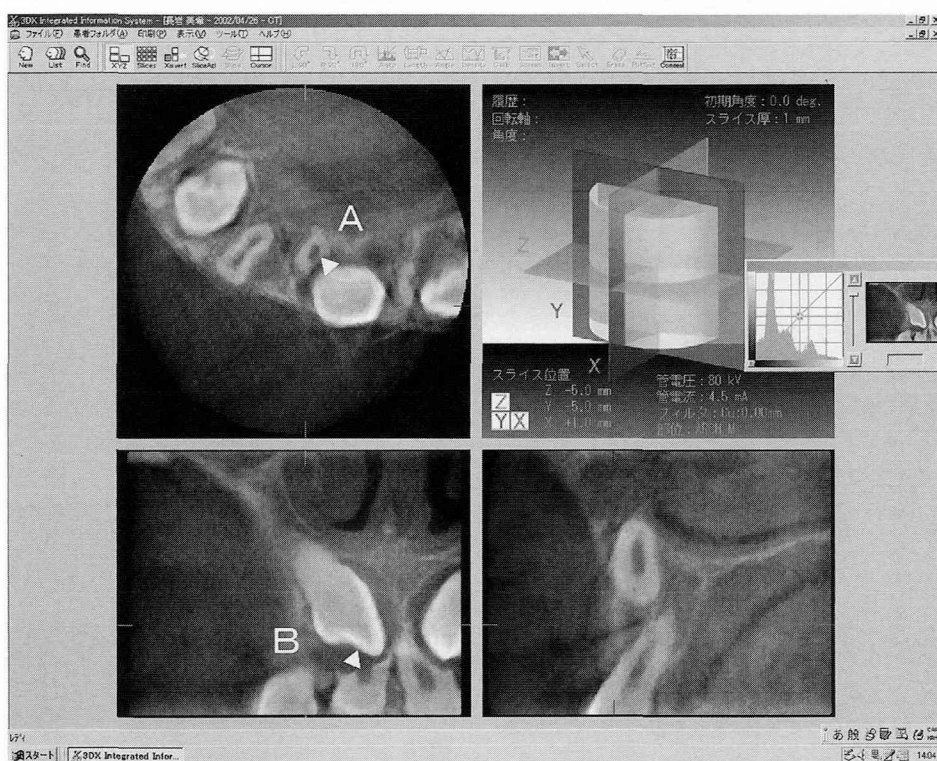


写真4：中切歯根尖では著しい歯根吸収を認める(△印A)。側切歯においては一部に吸収を認め、根尖側は舌側方向に変位しているのが認められる(△印B)。